

全国の入浴死 年間 17,000 人（推計）

◆ 過半数が、80 歳以上

東京都健康長寿医療センター研究所は、平成23年の入浴死者数が全国で17,000人（推計）と発表しました。これは、入浴中に心肺機能停止した高齢者について調査し、80歳以上の方が過半数でした。

同研究所は、入浴時の温熱環境を適度に保つことと、中古住宅を適切に断熱改修することの重要性が示されたとしています。



◆ 山形県内では 200 人超！？

庄内保健所では、管内消防本部の協力のもと実態調査を実施しています。それによれば、過去3年間で174人が亡くなっており、県全体では1年間で200人を超える方が亡くなっていると推測しています。

65歳未満の死亡が3年間で12件あり、また持病がない人も27人亡くなっているため幅広く予防法を周知しています。

最上地域における入浴事故防止の活動について

◆ 飲食店との連携

最上地域は県内で有数の豪雪地帯で、冬の気温は日中でも氷点下になる日も珍しくありません。住宅は基礎部分が高く寒冷地仕様が目につきますが、昔からの古い住宅も当然見受けられます。このような家屋の違いで、浴室と脱衣所の温度差がどの程度か、気になるところです。

最上保健所では、最上広域消防本部の協力により、入浴に関連する事故の調査を行っています。それによると平成24年には59件の事故が発生し、その内22名が亡くなっています。事故全体の8割がやはり70歳以上の高齢者が占めていて、その発生場所は家庭内が約8割、旅館や日帰り温泉施設等が約2割でした。

家庭での入浴は、共同の浴場と比べると目が届きにくく、発見も遅れがちです。

実際、最上地域では事故で死亡するケースのほとんどは家庭で起きています。家庭での「入浴時の声かけ」や「お湯の温度は概ね40℃以下」などの予防対策の周知が、事故を減らすカギと考えています。

保健所では、飲食店と連携して健康情報を提供する事業を展開しており、今冬は「入浴死・入浴事故防止」を取り上げました（写真）。



入浴事故の体験談を聞く

◆ 家族は気が動転しました

酒田市在住の川俣さん（85歳男性）は平成23年秋に、入浴中に溺水で救急搬送されました。当日の様子を、ご家族にお聞きしました。

* * *

Q. 普段はどのように入浴していたのですか？

今から7年前に、脳梗塞で右手と右足を動かしくなくなったことから、家族が着替えと体洗いの介助をした後に、一人で入浴していました。

Q. どのように事故に気付いたのですか？

普段は10～15分で上がってくるのですが、少し遅いと思い、浴室に声をかけに行ったところ、湯の中に沈んでいました。引き上げようとしたが、動かさませんでした。気が動転してどうしたらよいか分かりませんでした。

Q. その後どうしたのですか？

近所の友人に、以前看護師をされた方がいたので、電話をかけました。彼女から、「すぐに行くから、ふろの栓を抜くように」と言われました。➔

Q. 近所の方はどうされたのですか？

到着してすぐに、引き上げてバスタオルで保温しました。呼吸はありました。初めは意識がなかったのですが、呼びかけていると応答するようになりました。その間に家族は119番通報しました。

Q. その後、回復されたのですか？

救急車で病院に搬送してもらい、点滴を受けたところ、回復したためその日のうちに帰宅しました。当時は体調がよいため服薬もなく、血圧も正常だったので、原因は分かりません。

元々、脱衣所にストーブを置いて暖めていましたが、それからは浴室もシャワーで暖めています。



川俣さんの浴室。手すりの設置など工夫されている。

川俣さんが無事だったポイント

- ・ 家族の声がけで、早期発見できたこと。
- ・ 近所と連携して、適切な対処ができたこと。

オリジナルの動画のこと



妻「おふろの温度確認して」

入浴前に、お湯の温度の注意をします。

庄内保健所では、多くの方に入浴死を防ぐ方法を知ってもらうために、オリジナルの動画を作成しました。動画投稿サイトYouTubeで公開していますので、ぜひご覧ください。

よいふろ動画



お知らせ

- ふろのお湯の温度は41℃以下、できれば39～40℃に設定しましょう。
- 入浴事故の情報をインターネットで公開しています。詳しくは、

4126navi



- おふろについてのご意見、疑問などありましたら、お寄せください。

⇒庄内保健所保健企画課 yshonaihoken@pref.yamagata.jp

Newyoku Times
Yamagata vol.6

発行	庄内保健所
協力	村山保健所 最上保健所 置賜保健所